
「天へと続く階段」

三毛猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「天へと続く階段」

【Nコード】

N0930BA

【作者名】

三毛猫

【あらすじ】

学校へ向かう途中、気がついたらわたしの目の前に変なものが出現していた。ガラスで出来た階段？ なんだろうこれは。

【中学生】 【スカート】 【階段】 のお題で書かれた掌編です。

以前t e x p oにて公開していました。現在p i x i vにても「三毛猫の三題話」の一遍として公開中です。

それは天へと続く階段に見えた。わたしの目の前になぜか突然現れたそれは、幅二メートル程の透き通ったガラスで出来ているように見えた。上の方は、雲に隠れてどうなっているのかわからない。これはいったい何だろう、と通学途中のわたしは鞆を肩にかけたまま、だたぼんやりとその階段を下から見上げていた。

周りを見回すが、誰もその不思議な階段を気にかけている様子の人は見当たらない。もしかしてこの階段が見えているのはわたしだけなのだろうか。

好奇心に駆られて、一步階段に足をかけてみる。透き通ったガラスのように見えていたが、踏み出した足を中心に波紋が広がり、しやらん、と鈴が鳴るような音がした。

えい、ともう一步踏み出す。わたしの体重は完全に階段に支えられて、またしやらんと鈴の音が鳴った。なんだか面白くなって、しやらん、しやらんと音を立てながら階段を上っていると、透き通った階段の真下から、驚いた顔でこちらを見上げる少年の姿が見えた。たぶん、中学生くらいだと思われる少年は、こちらを見上げて、目をごしごしとこすって、それからちょっと頬を染めて意味ありげに微笑んだ。そこではじめてわたしは、透明な階段で真下から覗かれたら何を見られるかに思い当たって、思わず、スカートを押さえた。しかし流石に真下から覗かれていますは完全に隠しきれぬものでもなく、あわてて階段を駆け下りようとしたところで急に階段が光になって消えた。落ちる感覚があつて、真っ暗になった。

目を覚ましたら、知らない場所だった。そばに泣き崩れた格好の母がいて、話によるとわたしは通学途中、交通事故に遭ったということだった。ふと、あの階段を上り続けていたらわたしは死んでいただろうかと思った。あの少年に感謝すべきだろうかと思つて、でもスカートの中覗かれたんだから一発くらいはぶん殴らなくちゃ

と思い直した。

(後書き)

元ネタはリアル中学二年の頃に大学ノートに書いていた、詩のよ
うな散文です。そちらはただ、天へと続く階段を延々と上り続ける
だけの内容だったので、オチっぽいものを付け加えてみた感じです。
これを書きながら昔はわけのわからんものをいっぱい書いていたな
ーと封印された黒歴史をちょっと思い出しました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0930ba/>

「天へと続く階段」

2012年1月2日01時48分発行